

星のソムリエ講座

「さあ、はじめよう」

星空案内人資格認定制度

豊かな知識と経験からおいしいワインを選んでもくれるソムリエのように、
星空や宇宙の楽しみ方を教えてくれるのが「星のソムリエ:星空案内人」

(1) 星のソムリエについて

① 星空案内に必要な知識は非常に幅広い

- ・ 星座や星の種類について説明
⇒ 星空観察の知識や技能が必要
- ・ 星に関係した神話や伝承
⇒ 星空の文化に関する知識が必要
- ・ 星空の観察
⇒ 望遠鏡・双眼鏡など構造の把握・操作
- ・ 相手に合わせた説明
⇒ 相手の年代・知識に合った内容で説明

② 星空観察を行うことで、ヒーリング効果が望める

(1) 星のソムリエについて

③ 星空や宇宙の楽しさを伝える

星空案内 → 星空案内を受けた人が幸せに
→ 案内した人も幸せな気持ちに



ハッピー二乗の法則

④ ボランティア活動に参加することで交流が生まれる

- ・ 活動を通して、星空案内人同士で交流を深める
- ・ コミュニケーションにより知識を深めていくきっかけにもなる

(2) 天体の楽しみ方について

- ・ 星座神話を学ぶ
- ・ 望遠鏡などの観測機器を使った観測
（コンピュータ、カメラ、写真、画像処理）
- ・ 星空の文化、歴史を学ぶ
- ・ ただ見上げるだけ



自分だけが楽しむのではなく、
星空や宇宙の楽しさや楽しみ方を人に伝えること
が星のソムリエの第一歩

(2) 天体の楽しみ方について

星空案内で人気の天体トップ3

テキストⅧページ

1位：月

2位：土星

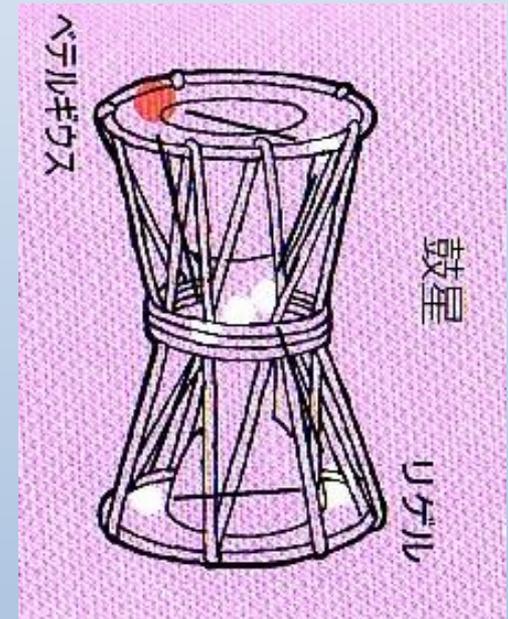
3位：二重星アルビレオ（はくちょう座）

(3) 星座のルーツ

【問 題】

オリオン座・はくちょう座などの星座はどこで生まれたのでしょうか？

1. 黄河文明
2. インダス文明
3. メソポタミア文明
4. エジプト文明



(3) 星座のルーツ

☆メソポタミアで生まれた星座

5000年ほど前（紀元前3000年ごろ）

メソポタミアにシュメール人の都市国家が形成される



紀元前18世紀ごろ 古バビロニア王国が誕生



「新年祭」粘土板集にさそり座やペガサス座が登場



星座の起源とされている



新年祭の粘土板

(3) 星座のルーツ

当時の人々は、空は丸い天井、
星は天井の飾りだと考えられていた。



よく目立つ星の並びがいつも同じ季節に、
同じように見えることに次第に気づき始める。



「農作業」種まきの時期や収穫時期の目安
⇒ 季節の移り変わりを知る目印として星はとても便利

(3) 星座のルーツ

☆ギリシャ神話と結合して発展していく

紀元前8世紀 おおぐま座、こぐま座などの星座がギリシャ神話と結合



紀元2世紀 天文学や星座文化の集大成

書物『メガレ・シンタクス』

⇒アラビア語で訳された「アルマゲスト」

⇒中世ヨーロッパにも広く普及

ポイント

「プトレマイオス（トレミー）の48星座」

(4) 混乱の時代を経て、現在の星座へ

①大航海時代（15世紀）になると、南半球から見える
新たな星々の並びに対して星座が作られる

②伝統的な星座の間に、すき間家具的に、個人的な趣味や
権威の象徴として新たな星座作りのラッシュが起こる

ドラえもん座、武部座、
ギョー座、銀座 など

③ルールが無く、自由に作られたため混乱が起こる

(4) 混乱の時代を経て、現在の星座へ



混乱期へ突入



明確なルールを決めることになる

ポイント

1928年 国際天文学連合 (IAU)

「??星座とその境界線決める」(世界共通)

(4) 混乱の時代を経て、現在の星座へ

【問題】

国際天文学連合で決められた星座はいくつか??

- 1. 8
- 2. 88
- 3. 888
- 4. 35億



どんな星座があるか見てみよう！ (p. 18)

春の星座

(5月に見える星座)

- ・かに座
- ・しし座
- ・おとめ座
- ・うみへび座
- ・うしかい座
- ・おおぐま座
- ・こぐま座
- ・ヘルクレス座 など



春の星座

夏の星座

- ・ はくちょう座
- ・ わし座
- ・ こと座
- ・ さそり座
- ・ てんびん座
- ・ いて座
- ・ へびつかい座

など

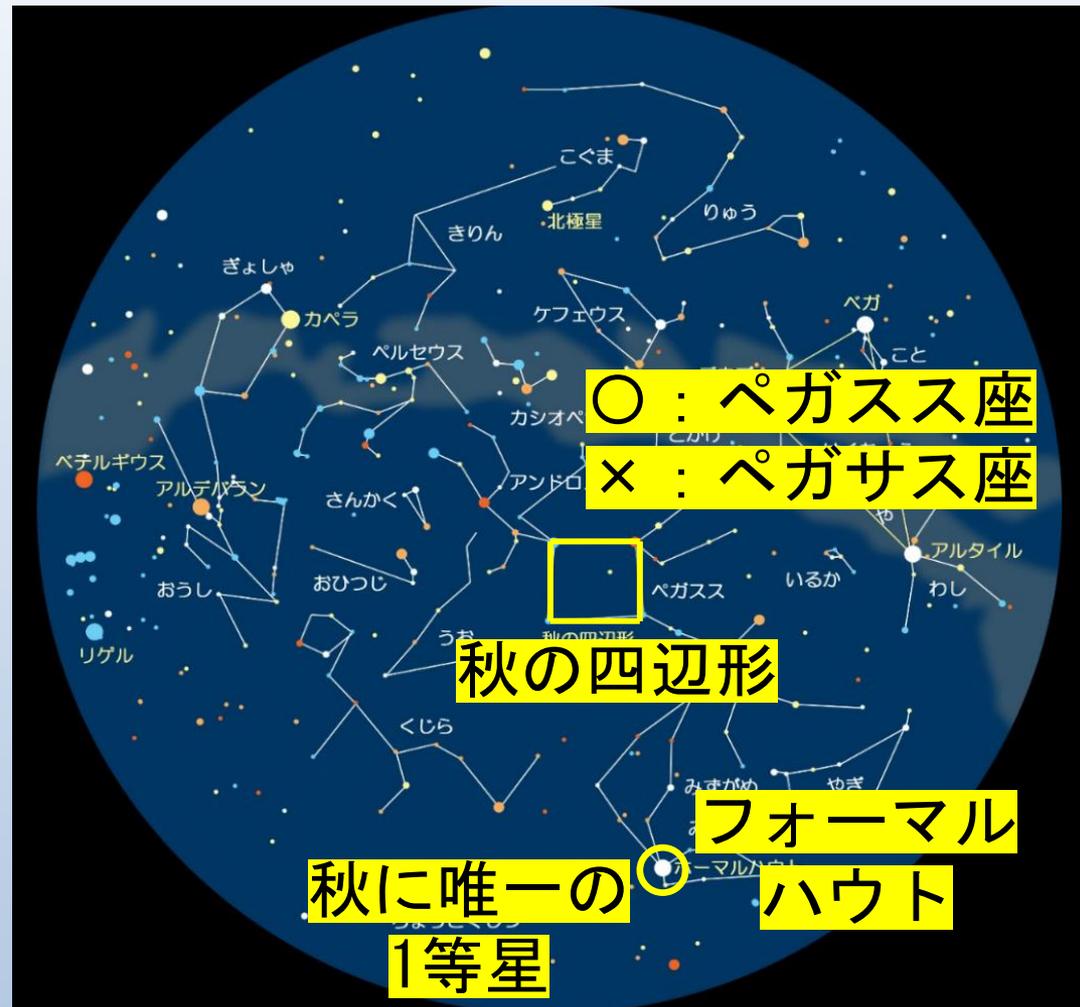


夏の星座

秋の星座

- ・ ペガサス座
- ・ カシオペヤ座
- ・ みずがめ座
- ・ うお座
- ・ くじら座
- ・ ペルセウス座
- ・ やぎ座
- ・ おひつじ座

など



秋の星座

冬の星座

- ・オリオン座
- ・おうし座
- ・ぎょしゃ座
- ・ふたご座
- ・おおいぬ座
- ・こいぬ座
- ・うさぎ座

など



冬の星座

星座の広さ順の一覧

星座の広さ順の一覧 (せいざのひろさじゅんのいちらん)

順位 ◆	星座名 ◆	領域の広さ ◆
1	うみへび座	1302.844 平方度
2	おとめ座	1294.428 平方度
3	おおぐま座	1279.660 平方度
4	くじら座	1231.411 平方度
5	ヘルクレス座	1225.148 平方度
6	エリダヌス座	1137.919 平方度
7	ペガサス座	1120.794 平方度
8	りゅう座	1082.952 平方度
9	ケンタウルス座	1060.422 平方度
10	みずがめ座	979.854 平方度

星座の面積を表すために用いる単位

1位、2位ともに春の星座

平方度(へいほうど)は、[立体角](#)の非SI単位である。1平方度は、一辺を1度([度数法](#)による)とする正方形と同じ面積を持つ球面を切り取る立体角である。平方度の単位記号は、deg²がよく使われる。

$$1 \text{ deg}^2 = \left(\frac{2\pi}{360} \right)^2 = \frac{\pi^2}{32400}$$

$$\approx 0.00030461741979 \text{ sr} = 0.30461741979 \text{ msr}$$

である (sr はステラジアン、msr はミリステラジアン)。逆に、

$$1 \text{ sr} = \text{約}3282.806350012 \text{ deg}^2$$

小さい星座トップ10

79	カメレオン座	131.592 平方度
80	みなみのかんむり座	127.696 平方度
81	ちょうこくぐ座	124.865 平方度
82	レチクル座	113.936 平方度
83	みなみのさんかく座	109.978 平方度
84	たて座	109.114 平方度
85	コンパス座	93.353 平方度
86	や座	79.932 平方度
87	こうま座	71.641 平方度
88	みなみじゅうじ座	68.447 平方度

南半球から見える星座が多いのも特徴の一つ

(5) 星の特徴

ポイント

星の2つの特徴 ⇒ 「明るさ」
「色」

① 明るさ 光量

② 色 星の表面温度

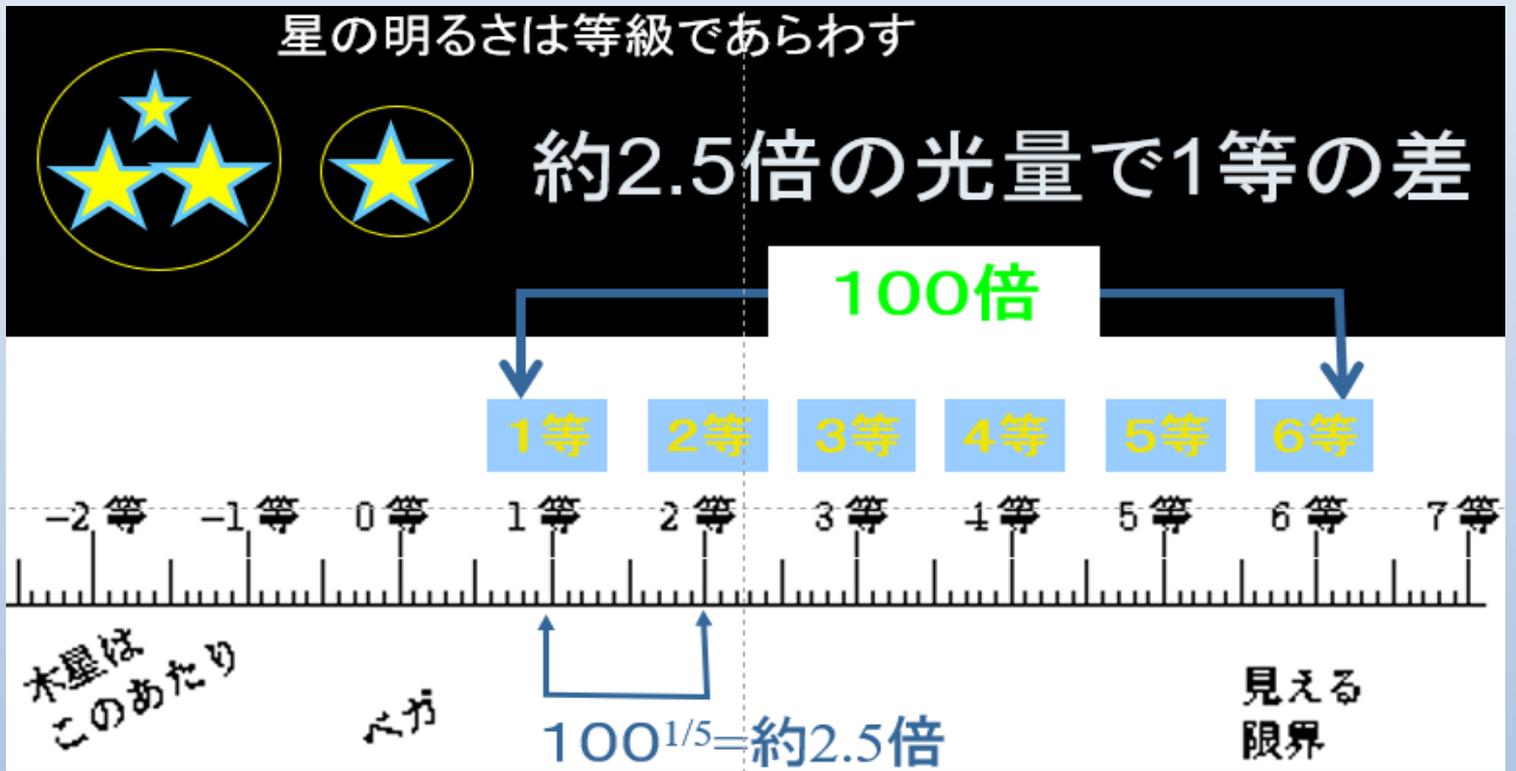


(5) 星の特徴

●特徴 1 「明るさ」 = 等級

ポイント

約2.5倍の光量で1等の差



(5) 星の特徴

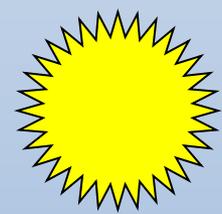
1等星よりも明るい星

太陽

月



シリウス

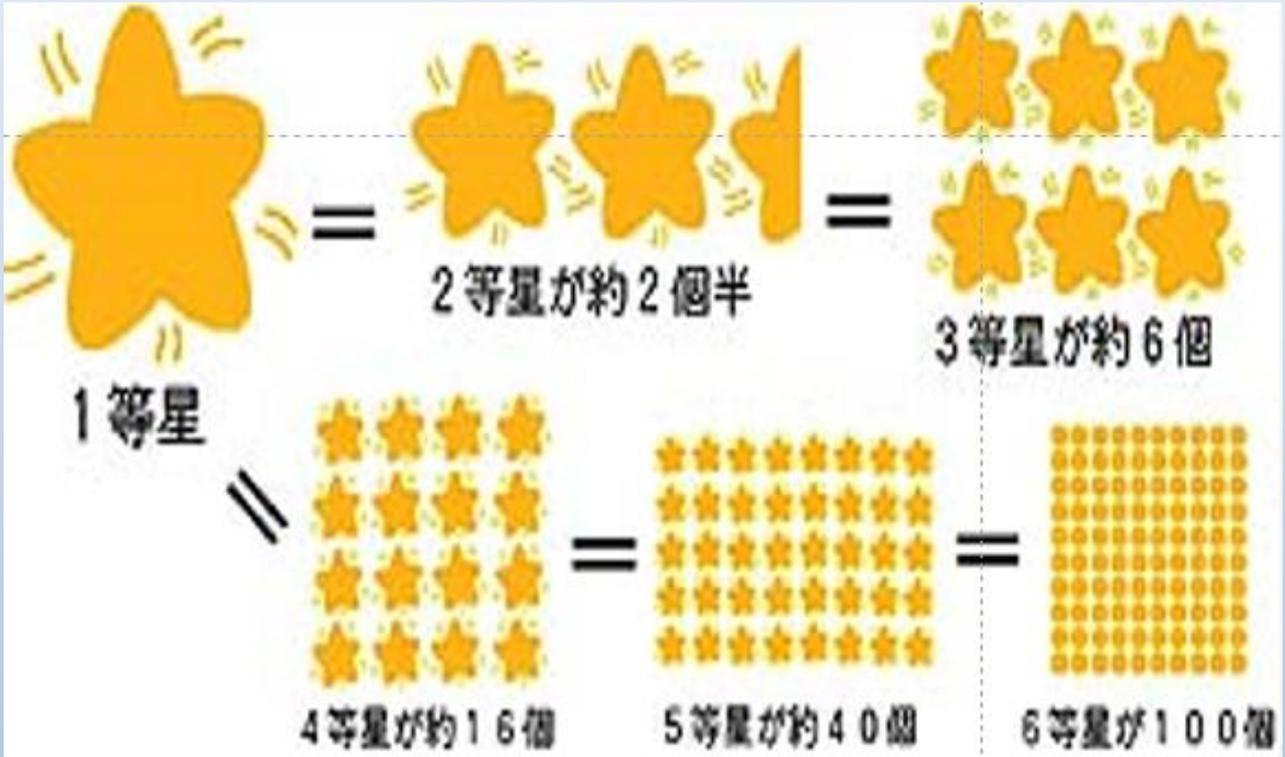


-1.4等星

(5) 星の特徴

見かけの明るさが違う

「**△△等星**」のように数字で表す



数字が小さいほど明るく見える星

(5) 星の特徴

●特徴2「色」 = 表面温度

色の違い



(5) 星の特徴

人間を含め、あらゆる物体は原子と分子から構成

原子や分子が互いに動き回る運動 → 熱運動



若い星ほど熱運動が活発で、星の表面温度も高い。

何も無い真空の空間でも電気や磁気があり、
揺れ動きが波となって伝わる → 電磁波

(5) 星の特徴

電磁波は振動数によって呼び名が変わる (p. 23)

目で見える電磁波 → **可視光**

可視光より振動数の高い電磁波

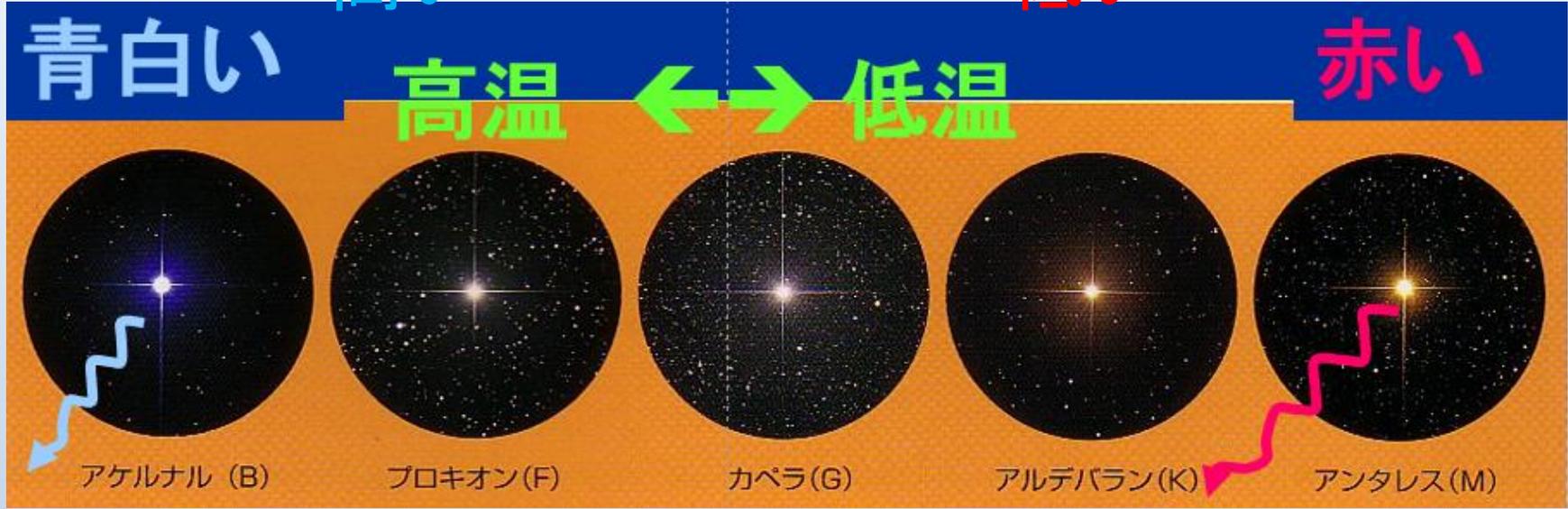
- ・ 紫外線 . . . 太陽光由来でオゾン層を通過し、人体の表皮層や真皮層に作用し、日焼けなどを起こす
- ・ X線 . . . レントゲン撮影などで使われる
- ・ ガンマ線 . . . 放射線の一種

可視光より振動数の低い電磁波

- ・ 赤外線 . . . 赤外線通信、ライト、センサーなどで使用
- ・ 電波 . . . テレビ、ラジオ、スマートフォンなど広く利用

(5) 星の特徴

高い 振動数 低い



可視光を振動数順に並べると虹色が現れる

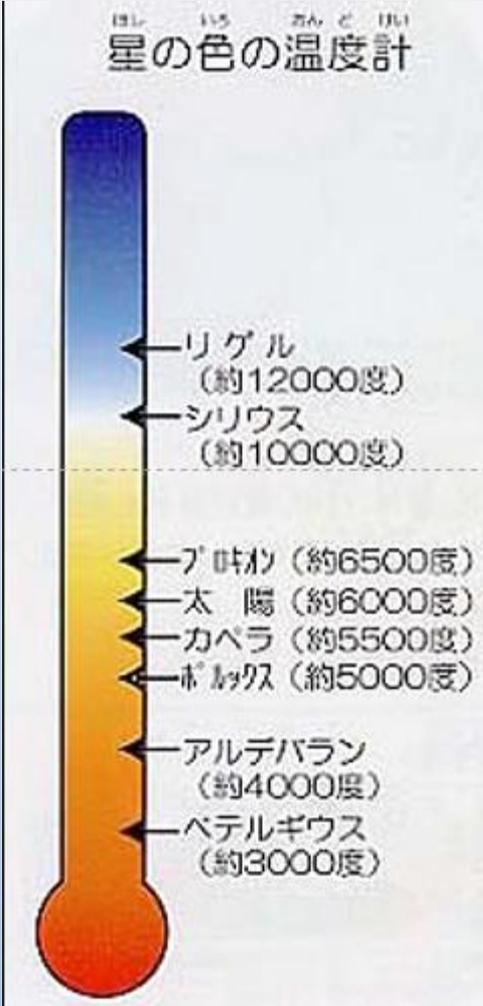
→ 振動数順に分けることを「スペクトル」と呼ぶ



ポイント

高温の星は青白く、低温の星は赤く見える

(5) 星の特徴



表面温度は、赤いほど低く、青いほど高い

星の色～冬の一等星～

 ①リゲル 0.1等・B	 ②シリウス -1.5等・A	 ③プロキオン 0.4等・F
 ④カペラ 0.1等・G	 ⑤アルデバラン0.9等・K	 ⑥ベテルギウス0.5等・M

屈折望遠鏡にカメラをつけてわざとピントをぼかし、露出不足ぎみに撮影。
*ベテルギウスは変光星です

パレットおおさき
大崎生涯学習センター

(6) 地球の自転・公転

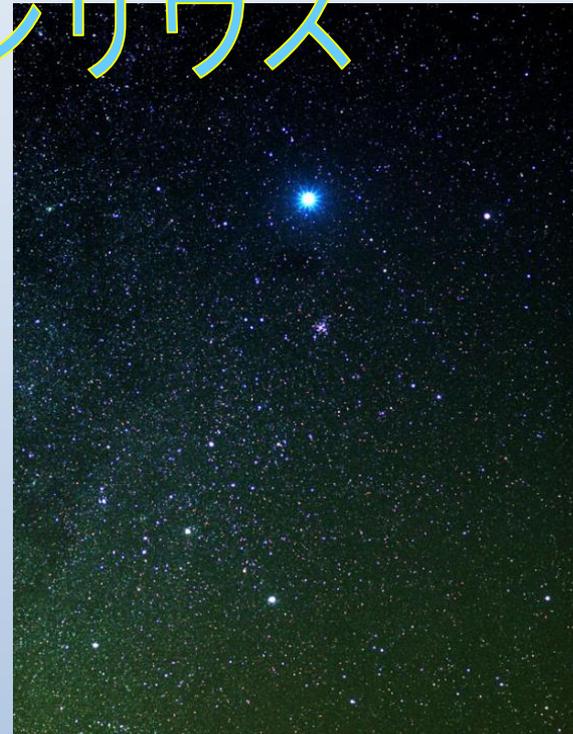
ポイント

「恒星」 自分で光を出して輝く星

太陽



シリウス



夜空に見えているほとんどの星は、この恒星です

(6) 地球の自転・公転

惑星・衛星の説明

ポイント

「惑星」

恒星の周りを回り、恒星の光を受けて輝いて見える星

地球、水星、金星、火星・・・など

「衛星」

惑星などの周りを引力を受けて回る星

月、イオ、エウロパ、タイタン・・・など

(6) 地球の自転・公転

ポイント

地球が自身の地軸を回る運動

自転(じてん)

ポイント

地球の自転軸(地軸)は23.4度傾いている

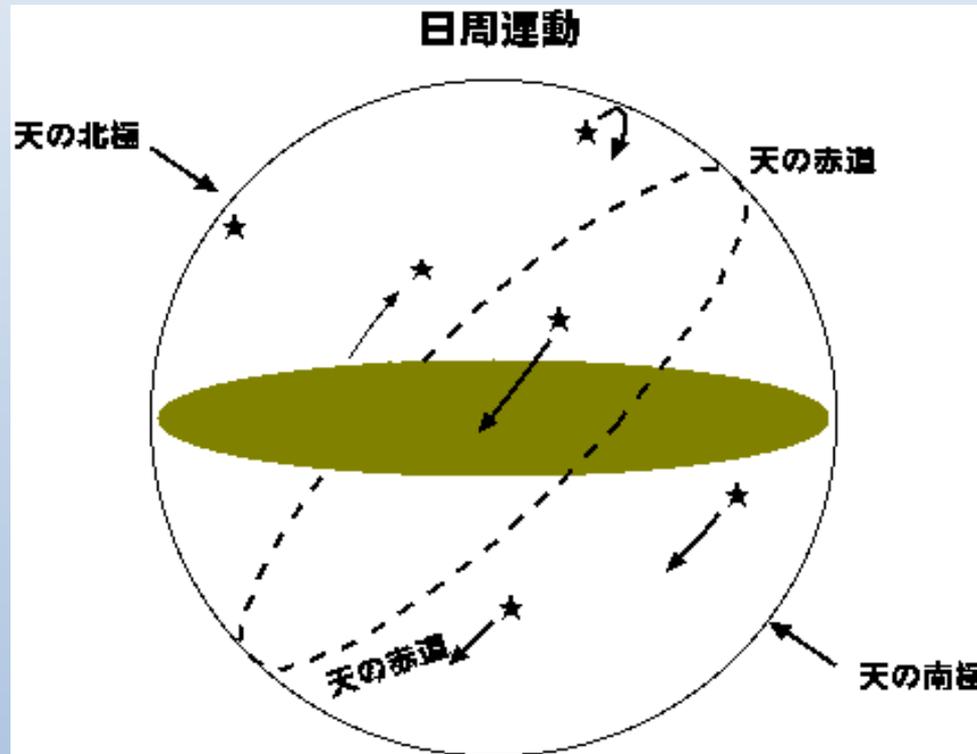
⇒ 自転軸が指す天の北極の近くには北極星

(6) 地球の自転・公転

ポイント

太陽が東から西に向かう回転運動

→ 「日周運動」 = 1 恒星日 (地球の自転周期)

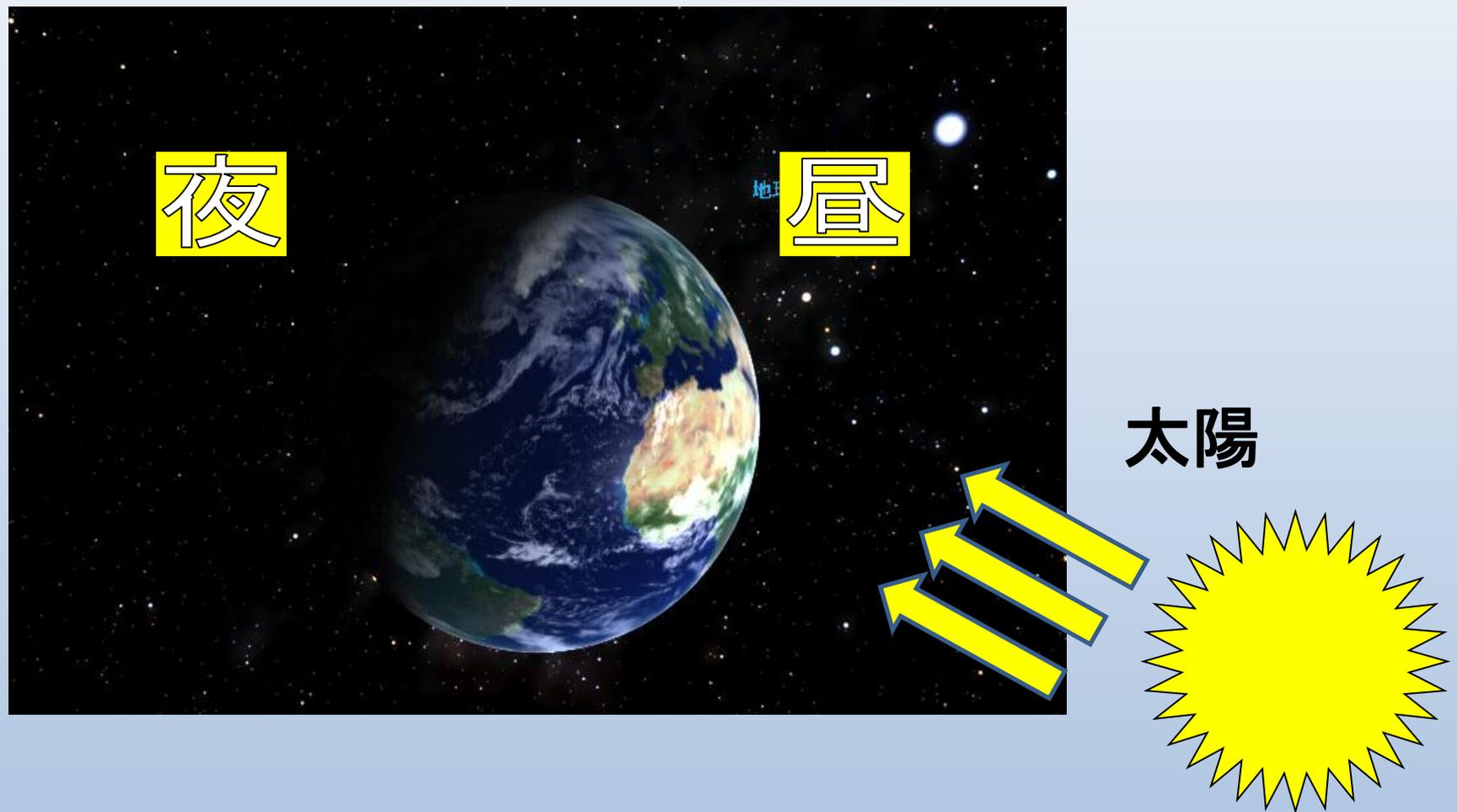


(6) 地球の自転・公転

【疑問】

昼と夜が交互に訪れるのはなぜか？

(6) 地球の自転・公転



(6) 地球の自転・公転

【問 題】

八戸市から全ての星空が見えるか？

※建物や山など遮蔽物が一切無い状態と仮定して

(6) 地球の自転・公転

地球が丸いため、地面の下（地球の裏側）に位置する星座は見ることはできない。

→ 88星座全てを見ることはできない



但し、緯度により見える星座は異なる。

みなみじゅうじ座

みなみのさんかく座

※緯度によっては見える星座

休憩タイム



(6) 地球の自転・公転

ポイント

地球が太陽の周りを回る運動

公転(こうてん)



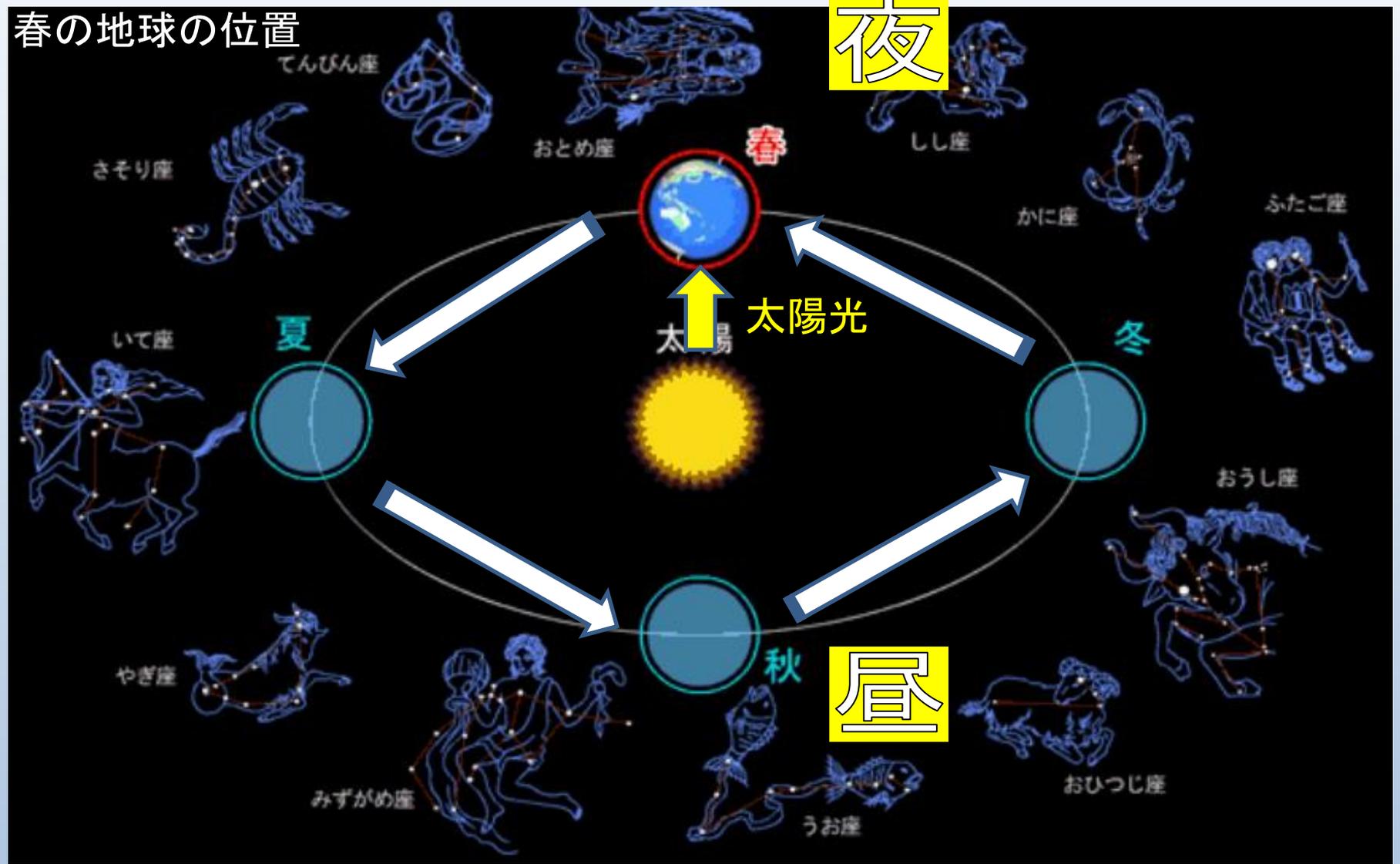
1年をかけて太陽の周りを回っているため、
夜に見える星座は季節によって異なる

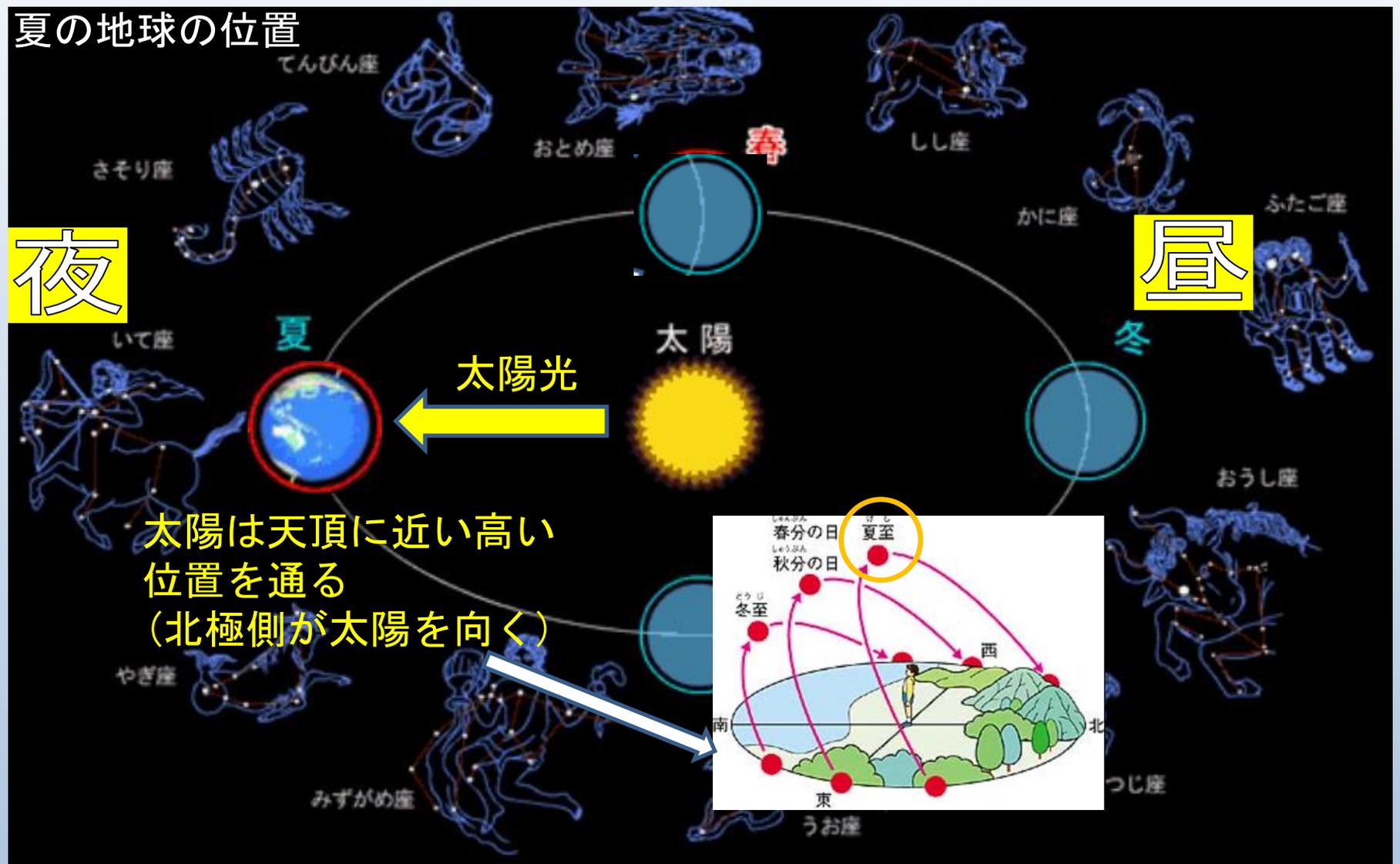


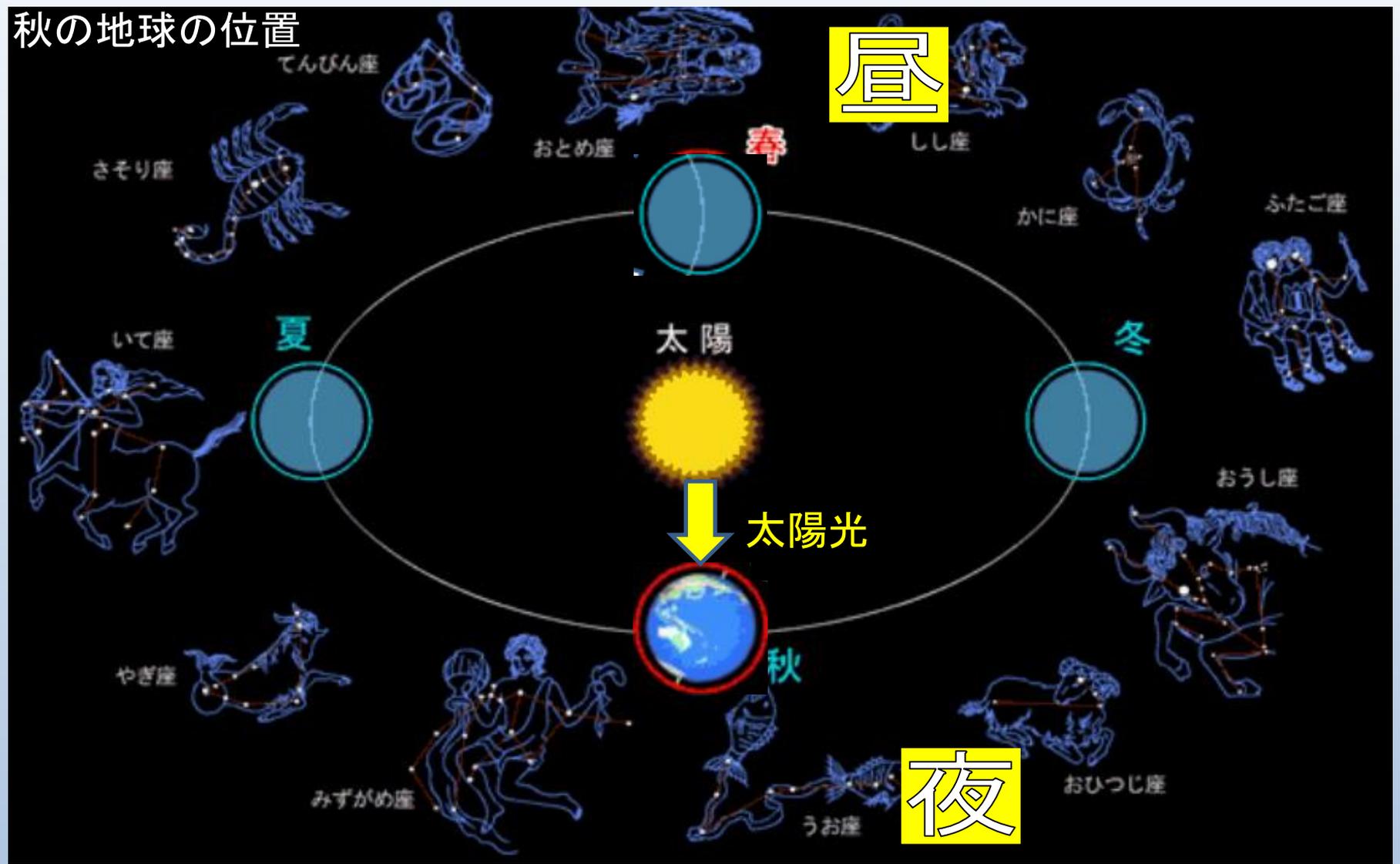
Q1) 春・夏・秋・冬に見える星座がなぜ違うのか？

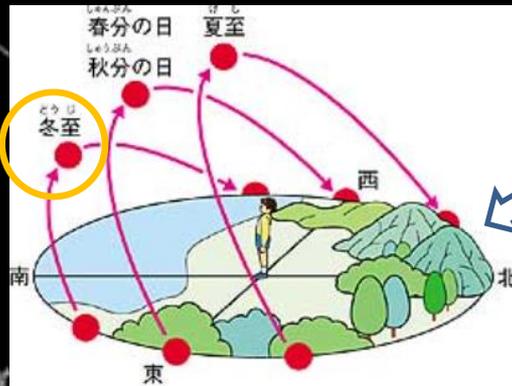
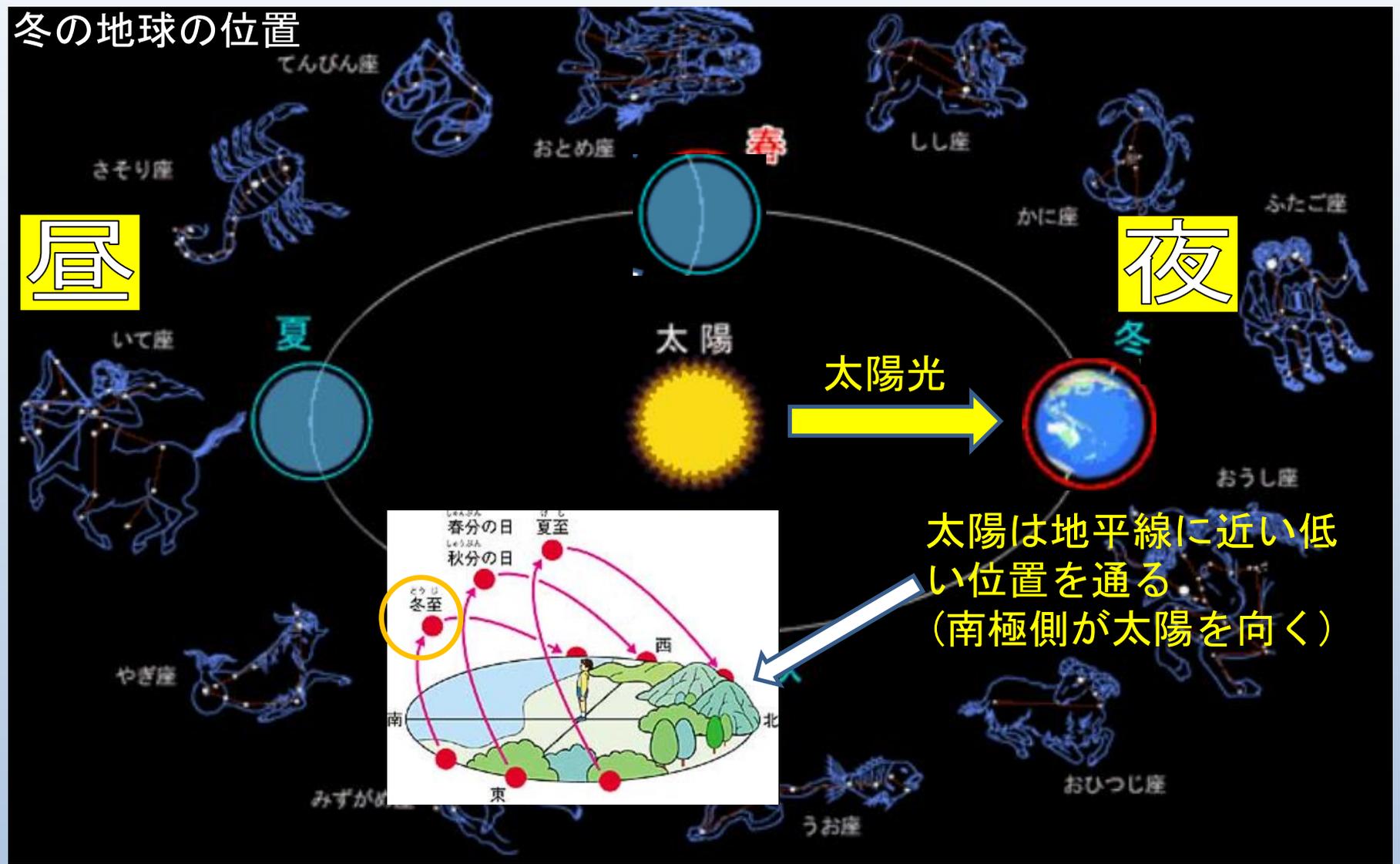
Q2) 太陽と地球の季節ごとの位置関係は？

春の地球の位置





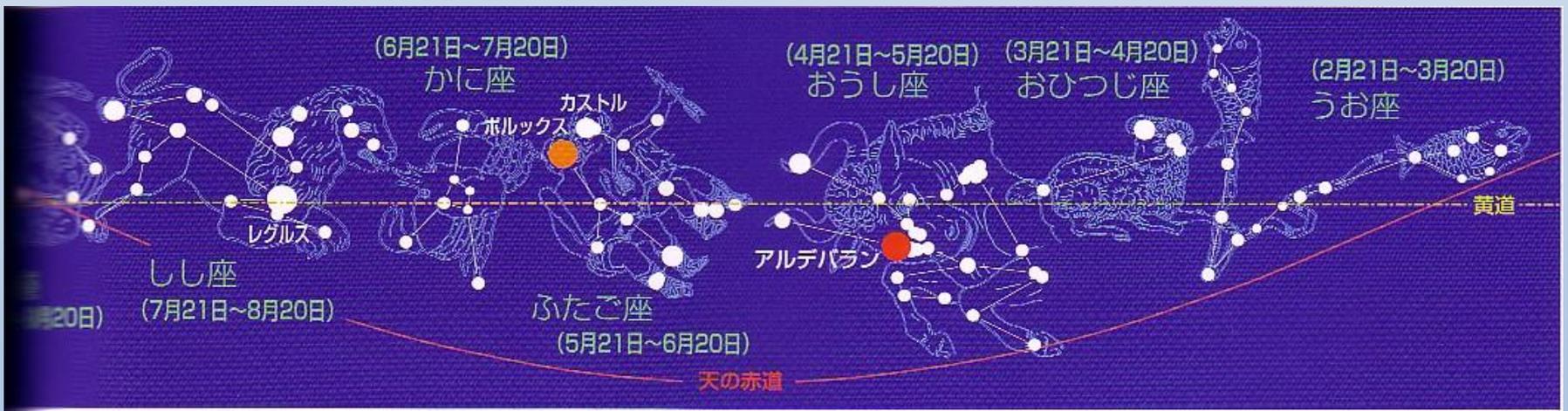




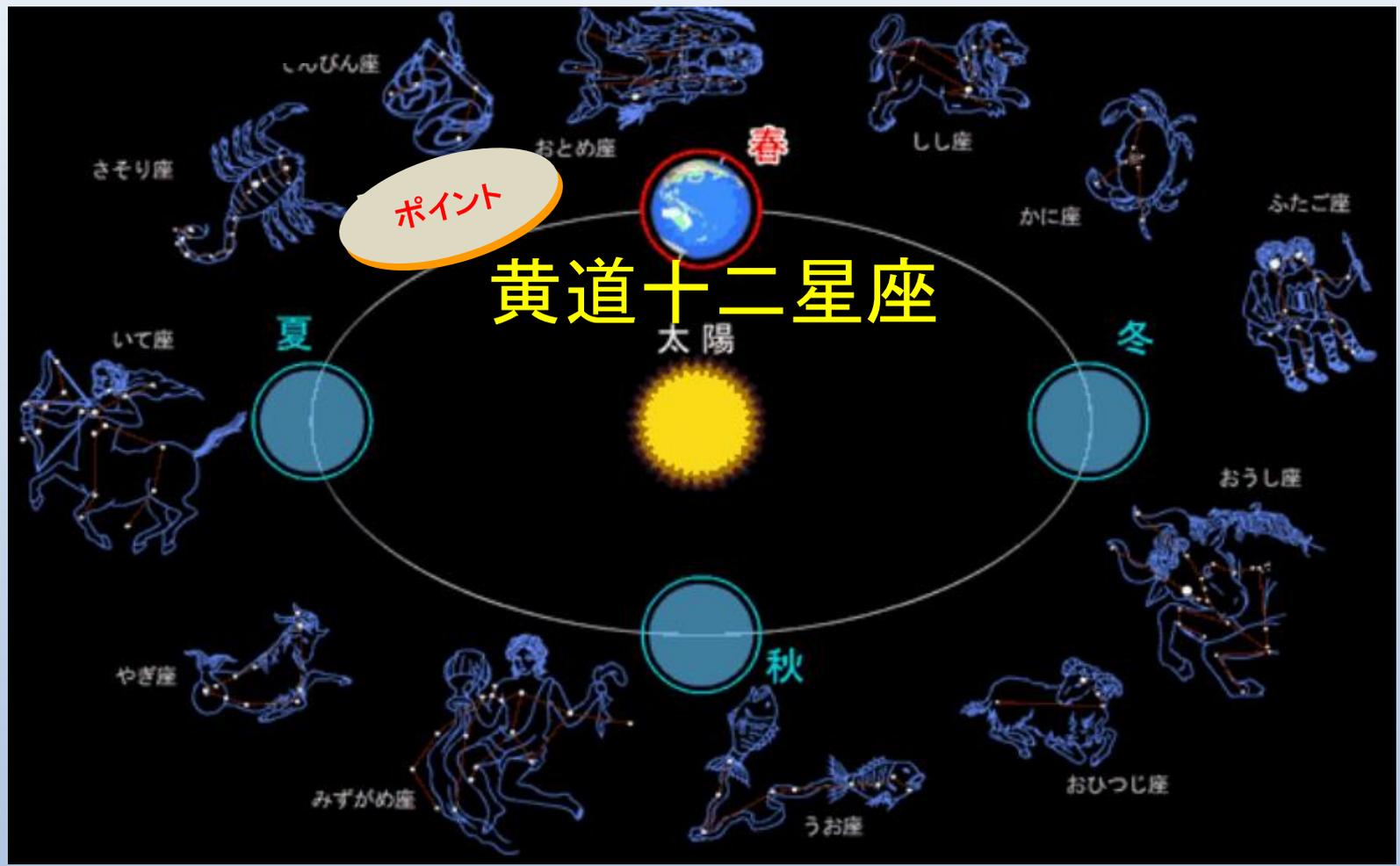
太陽は地平線に近い低い位置を通る。
(南極側が太陽を向く)

太陽の周りを地球が回る：公転
太陽は星座の中を移動するように見えます

ポイント



太陽の通り道にある星座



(7) 太陽系について知る

ポイント

「惑星」

→ 恒星の周りを回り、恒星の光を受けて輝いて見える星。地球もその一つ。

火星



土星



(7) 太陽系について知る

◆ 太陽系惑星の種類 ◆

水星、金星、地球、火星：岩石惑星（地表がある）

木星、土星：ガス惑星（地表がない）

天王星、海王星：（巨大）氷惑星

冥王星：元々は太陽系惑星（太陽系第9惑星）

⇒ 2006年 準惑星に格下げ

(7) 太陽系について知る



(8) 地動説の提唱

当時の学者は地球が宇宙の中心にあるという説「天動説」



1543年：コペルニクス

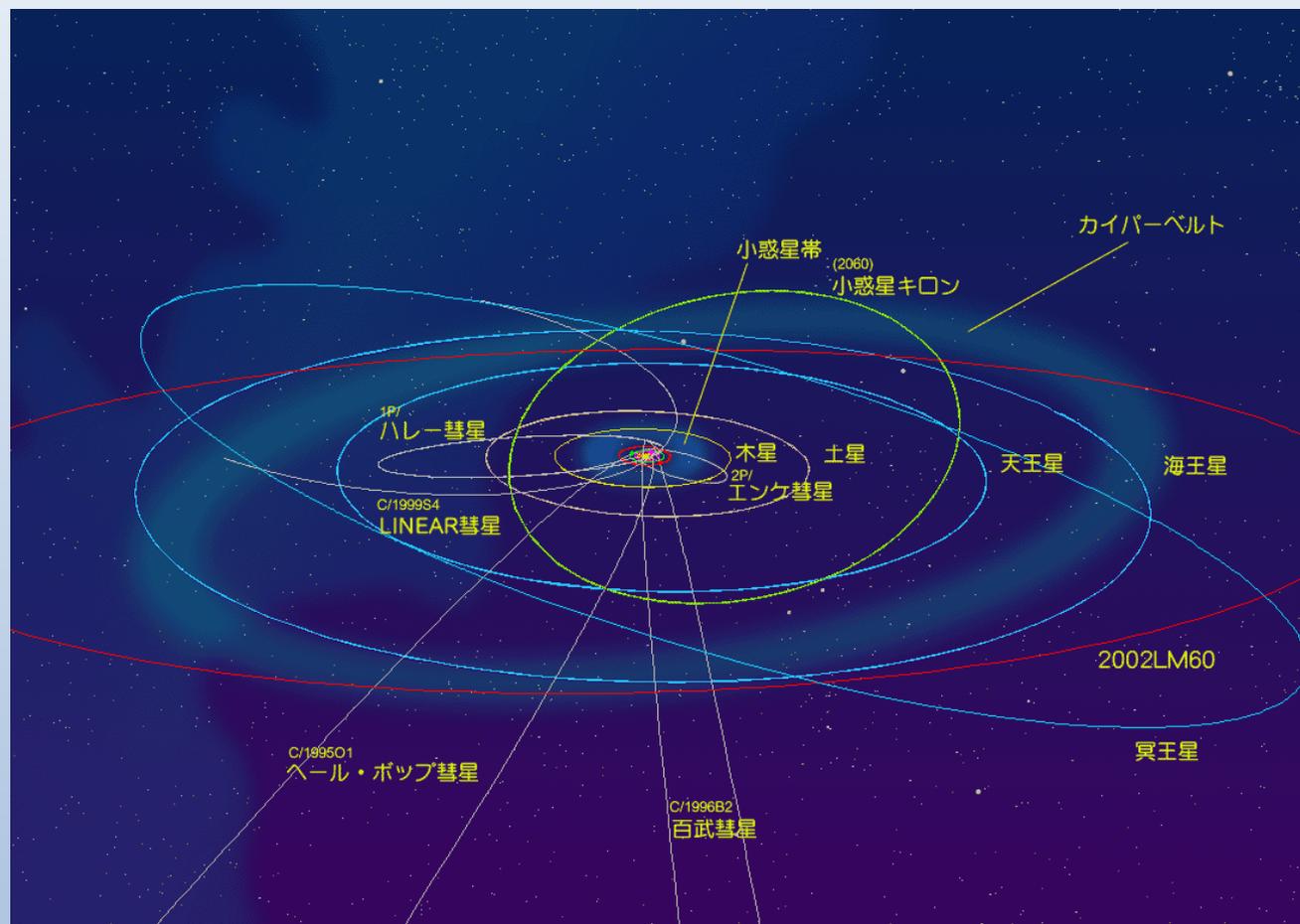
地球が自転しながら他の惑星とともに太陽の周りを回っているとする考え方：「地動説」

ティコ・ブラーエ：惑星の精密な観測（望遠鏡なしで）

ガリレオ・ガリレイ：木星の周りを回る衛星を発見

(8) 地動説の提唱

ケプラー：惑星の楕円運動を発見



(9) 太陽の周りを回る様々な天体(惑星)

【惑星】

水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星

⇒ 太陽系惑星

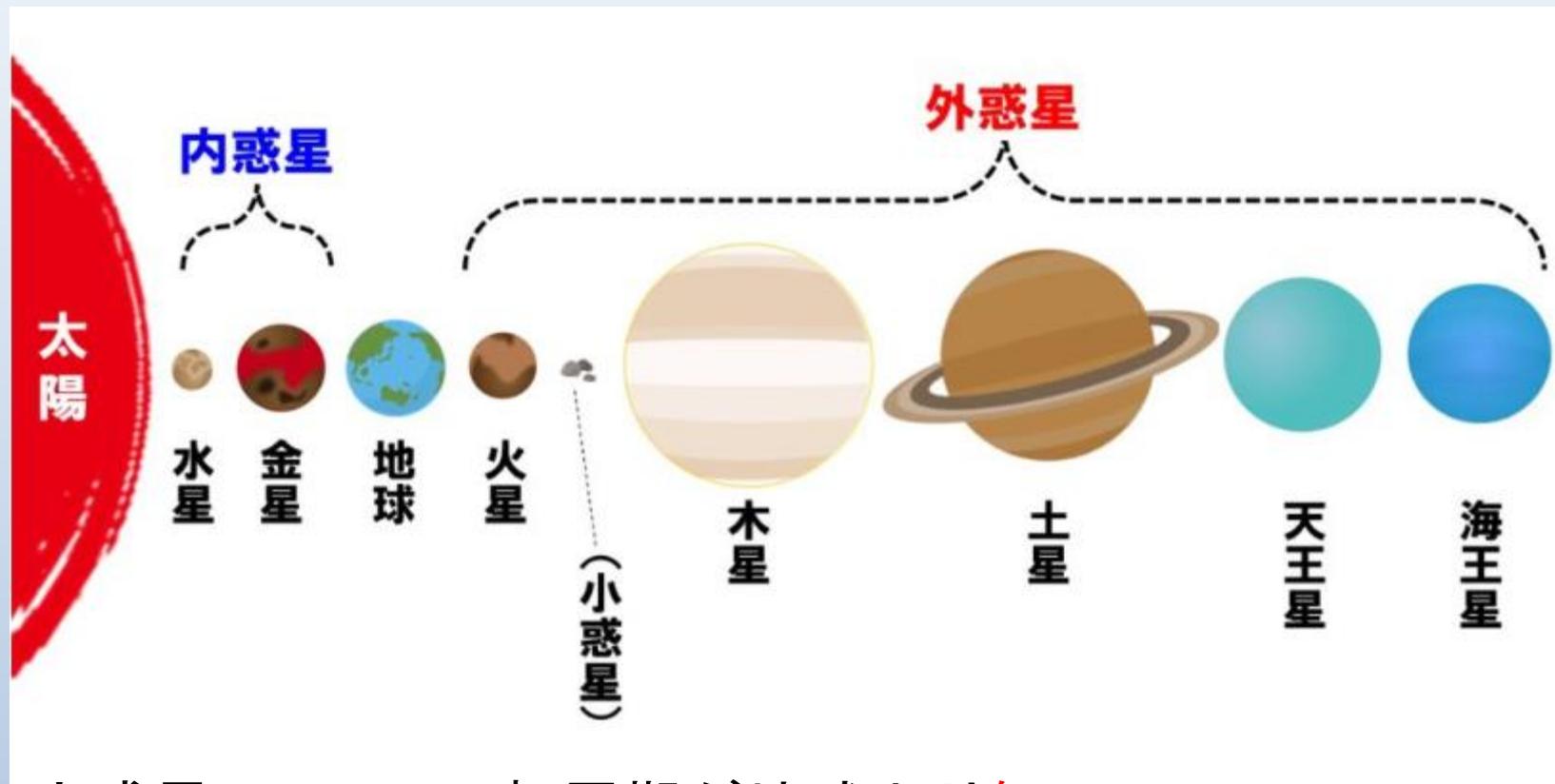
地球の内側を公転している惑星 = 内惑星(ないわくせい)

⇒ 水星、金星

地球の外側を公転している惑星 = 外惑星(がいわくせい)

⇒ 火星、木星、土星、天王星、海王星

(9) 太陽の周りを回る様々な天体(惑星)



内惑星 → 公転周期が地球より短い

外惑星 → 公転周期が地球より長い

(9) 太陽の周りを回る様々な天体(惑星)

星座の中に、ときどき見なれない明るい星がいる → 惑星
惑星は、日にちが経過すると星空を移動していく。動きは不規則。

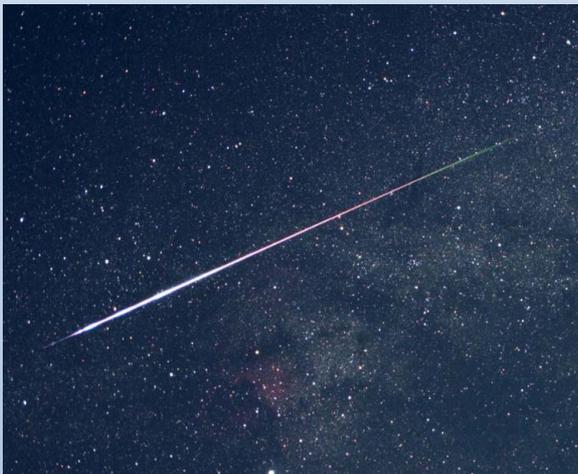


(9) 太陽の周りを回る様々な天体(彗星／流れ星)



彗星：

小さな氷の塊やチリで構成。
太陽に近づいた時に、太陽光線と太陽風の影響で尾を引いたように見える。



流れ星：

砂粒のような小さなダストが地球の大気圏に飛び込み、大気との摩擦で一時的に発光する現象。
小さいものは燃え尽きる。
大きいと燃え尽きず、地表に落下する場合も

(10) 宇宙の距離を測る

太陽と地球の平均距離

ポイント

1天文単位(1au) = 約1億5000万Km

太陽と惑星までの距離

テキスト 34ページ

太陽～水星：約0.4 (au)

太陽～金星：約0.7 (au)

太陽～地球：1.0 (au)

太陽～火星：約1.5 (au)

太陽～木星：約5 (au)

太陽～土星：約10 (au)

(10) 宇宙の距離を測る

光が1年かかって進む距離

ポイント

1光年(1ly) = 約9兆Km

1光年 = 約63,000天文単位 (au)

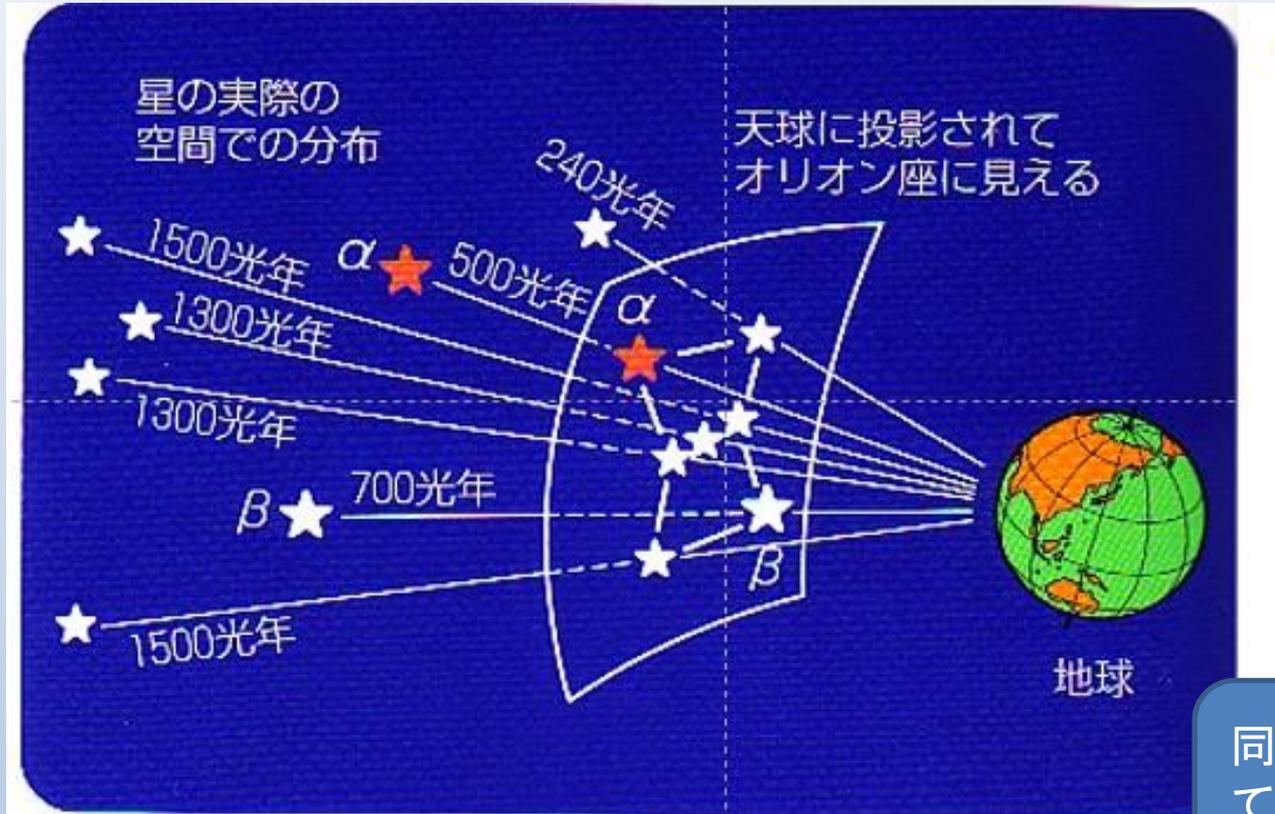
1パーセク (pc) = 3.26光年 (ly)

学者はよく使われるが、一般的にはあまり使われない

明るい恒星の等級や地球からの距離を試してみる

テキストト39ページ

(10) 宇宙の距離を測る



同じ距離に持ってきて比較すれば、デネブの方が明るい！！

シリウス：-1.5等星、8.6光年
※地球から見える星座の中で一番明るい
デネブ：1.3等星、1800光年

(12) 星団と星雲

ポイント

【星団】

星が密集したところ。恒星の集まり。

テキスト vi ページ

散開星団：誕生したばかりの星の集まり

プレアデス星団（和名：すばる）など

テキスト vii ページ

球状星団：互いの引力による星の集まり

ヘルクレス座 M13 など

(12) 星団と星雲

ポイント

【星雲】

宇宙空間に漂うガスやチリが恒星などに照らされて見える
密度が高く雲のように形作っている

散光星雲: 比較的広い範囲に広がったガスやチリのまとまり
オリオン大星雲 M42(オリオン座)



ガス同士の万有引力により集まる



新たな星の誕生

ガスは星の構成材料

(13) 銀河、銀河団

ポイント

【銀河】

星団、星雲、散らばった星々などの大きな集団
2000億個の星やガスの集団
渦を巻いており、直径は10万光年ほど

我々が住む銀河の隣の銀河
⇒ アンドロメダ銀河 (M31)

テキスト vii ページ

【銀河団】

多数の銀河が互いの重力の影響によって形成された銀河の集団

【天の川】

夜空を横切るように存在する雲状の光の帯
銀河の中心方向

(14) 宇宙の地平線、宇宙の誕生

ポイント

【ビッグバン宇宙論】

138億年前に宇宙はほぼ一点に集まっており、
高温の火の玉から急膨張した理論 = 宇宙の誕生

エドウィン・ハッブル (1889~1953)

天体が我々から遠ざかるスピードと天体までの距離が比例
= 遠い天体ほど我々より遠ざかっている



ポイント

『ハッブルの法則』



宇宙は今も膨張している！！

おわりに

星空や宇宙の楽しさを伝える
星空案内人を目指して・・・

さあ、はじめよう！！